

特定非営利活動法人 十日町市地域おこし実行委員会

# 2015年度 年次報告書

「お前たちにはまだまだ任せらんねえな！」

「集落が存続してくれるのが嬉しい。」

「根っから農業が好きでね。やっぱり作物ができたときは嬉しい。見返りは少ないけどね。」

「今がいちばん幸せ！」

「1年目だから無理もねえが2年目になると先が見えてくるんだ。」

「田舎って何かいいな。」

「草刈り終わらねー」

「なじょだい？」

# ご 挨 拶

日頃よりNPO法人十日町市地域おこし実行委員会をご支援頂き有難う御座います。

中越大震災をきっかけに任意団体として発足以来12年目、NPO法人として再出発以来5年目に入りました。この間大変多くの方々から、篤いご支援を頂きました事に先ずもってお礼申し上げます。

2015年度は新規就農者育成住宅「めぶき」の竣工と、集落の農業後継を目指す若者の入居という成果がありました。また、「池谷・入山ライスセンター」建設に向け、2017年着工を目指し検討を開始しました。現在、米の収穫後各戸でそれぞれ乾燥・調整をしていますが、高齢者にはきつい作業となってきました。稲作の引き継ぎ期を迎え、効率的かつ品質平準化の可能な施設の必要性が高まっています。

集落の存続にとって、農地の継承という課題は避けて通れません。数百年に渡り脈々と築かれてきた生活と文化そのものが、次代に引き継がれなければと考えます。高齢期を迎えた集落の主役者達にとって、一つの希望ではと思う次第です。

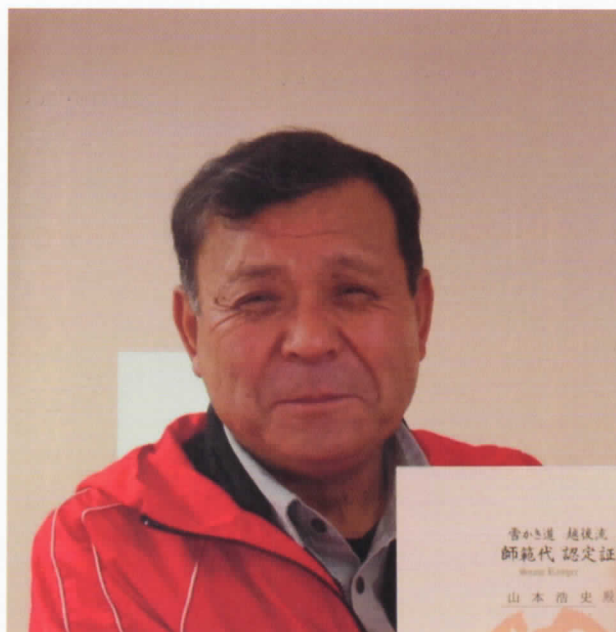
「めぶき」には2015年9月の入居者に続き、池谷集落で1年間のインターンを経て2016年4月に地域おこし協力隊に任用された若者も入居しました。このように地域おこし協力隊やインターンを経て、地元で定住するパターンが定着してきました。池谷集落のみならず、池谷を含む飛渡(とびたり)地域および十日町市全体でも顕著です。これらの成果・経験は、山村地域再生に対し汎用性をもって広く活用可能な理論になり得ます。任意団体発足以来、「池谷・入山での活動が広く社会に影響を及ぼすようなレベルに」を目指し、容易ではない現実を辿り進んできた当会にとって、この成果・経験の理論化とこれによる社会貢献はむしろ進むべき道であります。

昨年度、このような進捗を踏まえ法人としての事業概要の整理、また法人名の変更検討なども行い、先の総会にて承認されました事をご報告致します。

2016年6月  
NPO法人十日町市地域おこし実行委員会  
代表理事 山本浩史

## も く じ

|               |    |
|---------------|----|
| ご挨拶・もくじ       | 2  |
| 私たちの活動、活動概略   | 3  |
| 農産物直販事業       | 4  |
| 体験交流事業        | 5  |
| 移住促進事業        | 6  |
| 地域復興支援員設置事業   | 7  |
| 情報発信・農山漁村応援事業 | 8  |
| 管理部門・応援メッセージ  | 9  |
| 職員紹介          | 10 |
| 会計報告          | 11 |
| 団体概要          | 12 |



# 私たちの活動

## 理念

1. 池谷・入山地区の集落と農業の継続を実現しつつ、全国の過疎の集落が抱えている集落存続問題の成功例を示す。
2. 持続可能な新しい村づくりを実践し、循環型の社会モデルを目指し100年持続させる展望を示す。
3. 地元住民だけでなく地域外の関係者も含めて、新しい村づくりを進める。
4. 相互扶助と心豊かな社会実現を目指す。

まずは・・・

池谷・入山集落を存続させます。

- ・ 農産物直販事業
- ・ 体験交流事業
- ・ 移住促進事業

そして、

十日町市を元気にします。

- ・ 移住促進事業
- ・ 情報発信・農山漁村応援事業
- ・ 地域復興支援員設置事業  
(里山プロジェクト)

最終的には

日本の過疎の成功モデルを示し、  
日本や世界を元気にします！

- ・ 情報発信・農山漁村応援事業

# 農産物直販事業

## ●山清水米直販事業

### ・平成26年産米

山清水米の全生産者が新潟県の「特別栽培米」の認証を取得し、若米会様に160俵(9,600kg)出荷致しました。一般販売分としては、「山清水米」8,061.05kg、「超特選 農薬・化学肥料不使用『山清水米』はざ架け米」(以下はざ架け米)965kgを出荷致しました。

### ・平成27年産米

和日米会様の「限界集落プロジェクト(郷プロジェクト)」に107俵(6,420kg)、農民連に35俵(2,100kg)、食と農を考える飛渡の会(食農会)に61.5俵(3,690kg)出荷致しました。一般配売分としては3月末時点の発送済と予約分で6694.95kg、はざ架け米799.35kgの販売量となっています。

※特別栽培米…化学合成農薬および化学肥料の窒素成分を慣行レベルの5割以上削減して生産したお米。



## ●農業生産事業

2014年度の秋にNPO法人として農業参入を果たした事で、2015年度から法人として耕地を借りて稲作を開始する事が出来ました。約1町歩の面積の田んぼを耕作しました。この他に学校給食に出すための作物としてジャガイモ、キャベツを栽培・出荷しました。

また、ポップコーンを大量に栽培し、約70kg収穫しました。これらは農薬化学肥料不使用の自家製ポップコーンとして市内各地のイベントに出店して販売しました。

9月より農の雇用事業を活用して農業部門の研修生という事で1年間「食と農を考える飛渡の会」のインターン生として焼野集落に住んでいた馬場豊君を採用し、若い農業の後継者を増やすことができました。

## ●加工品販売事業

関東・関西エリアの寺社を中心に販促を実施、新規で兵庫県神社・寺院から注文がありました。既存の東京の神社向けの出荷も堅調、取引先の神社からは、参拝客が増えたとのことのお言葉をいただきました。

白がゆ・野菜がゆ・山菜炊込みご飯の素・豚角煮大根の加工品と山清水米をセットにし、十日町カタログギフト第3版に掲載。当法人でも十日町市厳選食材ギフトセットで各種セット商品を設定し販売しました。来年度は、既存の商品で販売の良いものにラインナップを絞り込み、事業の収益化を図っていきたいと思っています。



# 体験交流事業

2015年度は計9回のイベントを開催し、のべ参加人数は393名となりました。また、交流人口は814名でした。

## 池谷の山菜を楽しみ尽くす会！

「山村へ行こう！」を企画変更し、日帰りのイベントとして開催いたしました。首都圏の方をはじめ十日町市内からもご参加いただき、村人と一緒に山菜採りと山菜料理を楽しみました。

## 田んぼへ行こう！

無農薬・無化学肥料のはざかけ米の田植え、稲刈り・はざかけを行いました。稲刈り・はざかけの回では、参加者の希望により多田事務局長の飼育する廃鶏のと畜を行いました。普段見えない「命をいただく」過程を見ることができた、とご感想をいただきました。

## めぶきお披露目会

新規就農者育成住宅「めぶき」が完成したこととともない、寄付者・関係者の方などをお招きしてお披露目会をいたしました。当日は57人と大勢の方がお越し下さり、ともに池谷集落の新しい希望の完成を喜びました。

## やまんなかマルシェ in いけたに

今年度初の試みとして、池谷分校でマルシェを行いました。市内外から飲食店や雑貨店など11店舗に出店いただき、初めてにも関わらず約150人のお客様をお迎えし大変好評でした。

市内の方でも池谷集落を訪れたことのない方が多く、集落を知っていただくよいきっかけになったと思います。

※マルシェ・・・フランス語で「市場」



## 敬和学園修養会

新潟市の敬和学園高等学校の生徒さんたちが奉仕活動に来てくださいました。いくつかのグループに分かれ、村人の農作業や実行委員会の田んぼの稲刈りをお手伝いいただきました。

また、修養会に参加できなかった生徒さんが2月の池谷雪かき道場にご参加くださいました。

## 収穫祭

2005年に始まった収穫祭も第10回目となり、第10回記念収穫祭として開催いたしました。

第1部では市内竹所(たけどころ)集落在住の建築家カール・ベックス氏にご講演いただきました。また、パネルディスカッションでは市内津池(ついき)集落のシェアハウスオーナー西村治久氏、長岡市の公益社団法人中越防災安全推進機構の阿部巧氏からもお話しいただきました。

恒例の懇親会では余興も盛りだくさんで、大賑わいとなりました。

## 池谷雪かき道場

本年度から「越後雪かき道場」を主催するNPO法人中越防災フロンティア様からのれん分けをいただき、「池谷雪かき道場」として開催することになりました。

初級ではかんじきやスノーダンプの指導、中級では安全帯を使用しての命綱講習を行いました。



## 2015年度イベント一覧

| 実施日         | イベント名              | 参加人数 |
|-------------|--------------------|------|
| 5月2日        | 池谷の山菜を楽しみ尽くす会！     | 7名   |
| 6月5日～7日     | 田んぼへ行こう！（田植え）      | 8名   |
| 8月23日       | めぶきお披露目会           | 57名  |
| 9月6日        | やまんなかマルシェ in いけたに  | 150名 |
| 9月30日～10月2日 | 敬和学園修養会            | 50名  |
| 10月2日～4日    | 田んぼへ行こう！（稲刈りとはざかけ） | 10名  |
| 11月7日       | 収穫祭                | 76名  |
| 1月16日～17日   | 池谷雪かき道場            | 11名  |
| 2月6日～7日     | 池谷雪かき道場            | 24名  |

# 移住促進事業

## ●十日町市への移住促進

十日町市役所から事業委託を受け、以下3つの取組を実施しました。

### 移住相談会への出展

新潟県が主催する「にいがた暮らしセミナー」「TURNSカフェ」「ツマリカフェ」等各種移住相談会に出展し、十日町市のPRを行いました。個別相談も合わせて全体で86組98名の移住相談に応じ、7組11名の方が十日町市に2015年度中に移住しました。



TURNSカフェでは、大勢の方にお集まりいただきました。

### さとナビ(移住希望者向け情報サイト)の運営

十日町市への移住・交流情報を掲載したホームページ「さとナビ」のリニューアルを行い、市内各地に十日町の情報を発信してくれる「さと記者」を組織して発信するようになりました。その結果、月間の閲覧数が約3倍になりました。

さとナビ: <http://www.tsukurou-tokamachi.jp/>

### 地域おこし協力隊世話人情報交換会実施

地域おこし協力隊など外部からの人材を上手く受け入れる地域を増やすために、市内の地域おこし協力隊受入地域向けに「地域おこし協力隊世話人情報交換会」を実施しました。

## ●インターンシップ受入

十日町市内各地にインターンシップ受入のコーディネートを行いました。新たに飛渡地区の三ツ山集落が、インターンシップ受入地域先となりました。

### 【受入地域・団体(計6か所)】

池谷集落、中立山集落、千年の市じろばた、竹所集落、三ツ山集落、食と農を考える飛渡の会

### 【受入人数】

1年間 … 4名

1～2カ月間 … 5名

合計 … 9名

このうち4組5名が、インターンシップ終了後も十日町市内に住み続けています。



インターンを通して、十日町の魅力を体験！

## ●住宅建設プロジェクト

新規就農者育成住宅「めぶき」が完成しました。これまでご寄付頂いたり、作業のお手伝いをして下さった皆様方のご協力なしには成し得なかった事です。この場をお借りいたしましてお礼申し上げます。

入居者第一号は、当法人の農業部門の職員として採用された馬場豊君です。(9月に入居)

雪が降る前に、建設時に余った丸太をチェーンソーで製材して、車庫を自作しました。2016年度の4月からは地域おこし協力隊員を受け入れる事も決まり、未来の池谷集落の担い手を育成する取り組みが徐々に形になってきました。